卷頭論文

二　イヤエ復活の意義

第一

日本思想界に於けるニイチエ思想の復活は、独逸ドイツに於けるニイチエの復活と異なり、反映しつゝあるやうに見へる。明治三十年代に高山樗牛がニイチエを我文壇に紹介した時は、恰もドイツに於けるニイチエの名が高まつた時であり、其の後大正の初頃に我思想界に再びニイチエ思想が復活した時は、ドイツに於けるは十九世紀末に於て衰く理想主義思想が復活せんとした時に相當した。而して此の數年来世界戦争終結以後ドイツに於けるドイツ精神の復活と共に最近数年来ニイチエ思想の復活が活潑と称せられ、我思想界にも反映し、我国に於ては、この度びこの度びニイチエ思想が主張され鼓吹されるに至つた。なぜ今日からあり得べきかと、明治時代の最初の十年ニイチエ思想輸入は、日本に於ては、まだ何等の

（東京　文房堂製）

論も無論不用意な輸入であり、大正時代の後活がむしろ始めて変革の意味に於て此の思想が我国に移植されたのである。然かも最近ドイツに於ける此の思想の後活がまさに時と所とを異にするとすれば、同じ意味に於て最近の我国の思想界の後活は、殆んど変革であるとすれば、一は、我国に於ける後活は、最も意味深い後活であると云へられる。此の理由を明らかにするためには、先づ二イチエ思想とそれぐの時代精神とが最近と比較され、比較されて考察されねばならぬ。

第二

今日から振り返つて見れば、二イチエは明確に十九世紀末に於ける却説大きなロマンチストである。ロマンチシズムの特徴は、それが先づ一般に反抗デモクラシーに対して、まさしく反抗又は正反対の立場を取る点に在する。無論二イチエも反動説とのみ見ることは彼れの大を誤つけることとなるであらう。

而して彼れは彼れとしての独自の本領を
遺憾なく思想界に於て発揮したことは、今日から見て最
早明白な事実である。即ち彼れは世俗的ロマンチシズムの立場から真向にデモクラシーやリアリズムに反抗した。彼れは立つた。春秋二イチエを思慕したドイツ浪漫派は、悪い意味のリアリズムに取合はずまた分析的な徹底的徹底的デモクラシーに反抗した。徹底的デモクラシーが大気本位、衆愚本位、平均主義の思想であるに対して、新かんれん法主義を

嫌悪する者の基しき吐吐を禁じ得なかつたのである。彼れは鋭くこれを排撃した。
主義、超人主義、貴族主義の立場を取つて之に反抗する者であつた。デモクラシーが平民主義
乃至平等主義の思想であるに対して、ニイチエはど貴族主義乃至別主義を強く主張した者
は無い。デモクラシーが人間を水平化し個性化して愚化するに対して、ロマンチシズムは人
間の個性を別に個性を尊重し卓越優秀者を見出さんとしてまらとする。デモクラシーは真

さ、又は平面の思想に外ならずして、ロマンチンぶんは深さ、又は強さと本位とする思想である。

両者は根本的に全く精神を異にしている。

ニイチエは当時のマルクス主義に対抗して立つたのである。次は、即ち社会主義に反抗して立つたのである。

超人主義として立つたのである。

ゼロはならぬ。

新しい貴族主義、大主義、超人主義、これはロマンチンぶんの血肉そのものに外ならない。

百年ニイチエを因続したもの、といふ。

はデモクラシーと、

（ぶんである）べき近代のポジチヴぶんの立場近代リアリズムの思想であつた。

第四のポジチヴぶんこれは、十九世紀後半期の思想のドイツ思想を支配した最も強い思想であつた。

十九世紀の産業革命は因果科学の発達と密接に結合し、因果科学の発達はポジチヴぶんの根本に結ばれた。

コムトは、時強くドイツの思想界を支配した。

即ちニイチエはまさしくこのポジチヴぶんの立つたにマンチンぶんに反抗して立つたにマンチンぶんに反抗して立つたのである。

えにゝ為つた。　自然に対する憧憬が強く——
れんは何時必要なものには執着ないが——
やうな憧憬の念の強さのみに人間を満足せしめん
とするものゞ如きポジテヴズムである。　ポジテヴ
ズムは全く人間の者を無知し人間をたゞ
自然方の前に平伏させるに過ぎない。　人間を
憧憬化し傷化し平凡化し、自然に強伏すゝ
ことと人生の最大事と敬へるものがポジテヴ
ズムである。　ポジテヴズムが敬へるものは、憐憫
ひべき功利と快楽や享楽やに過ぎない。こ
んが高時のリアリズムに反抗したニイチェの
憧憬である。　リアリズムは実としゝ自然に
盲目し、ロマンチシズムは素ら人間に着目する。
啓蒙的主智主義の立脚地を確立したルソーは
奇怪なこれは人間の真生活であると考へ、又
極端な感情の啓蒙運動に反抗しゝ立つた十九世
紀最初のロマンチシズムも、後も深刻な情熱と
のものを真の人間生活であると主張した。世
紀末ロマンチシズムを代表したニイチェに取
つては、最早無邪気な愛情のせきもりと人間の

（東京　文房堂製）

真生活と考へることは出来なかつた。意識的意味に於て大新文化と創造しなければならぬ強大な人格のみが真の人間生活をなしとげられた。ニイチエの權力主義とは、決して大いなる權力主義ではなく、大新文化創造の英雄的乃至天才的人格を意味するものである。彼は所謂超人は高貴の除りにも崇高な思想を超越した真の創造的人物の意に外ならない。世俗的ロマンチシズムは、尚武的に新しい、必然的に新しい、深刻な愛等を愛せざるを得ないのである。

斯のごとく立脚地に立つたニイチエが、時代の要求するリアリズムやイデアリズムやロマンチシズムに反抗したことは、眞に自然又必然の結果であつて、先づ此等を破壊し尽くすことが出来なかつたのである。彼は如何に深く又強く斯のごとくイデアリスティックに反抗したかは、彼れがヨーロッパ心の主潮たる文化の潮流に対して、科学的文化の最初の建設者として、のソクラテスを心の底から軽蔑し撃破

（東京 文房堂製）

しまったまま死んだ。事によると明日かも知れない。

ニイチェに取つては、義務は目前の変化に応じて、めいめい自己を忘れた時代の為めに、人間生活を高めたのだ。

それこそロマンチックとでいふよりは、ひしろアイデアリスチックに二イチェの向日葵とでもいふべき。

第三

土もかれ、二イチェの思想は、決して単純にリアリズムに基づくロマンチックではなく、これ丁度のあらゆる思想傾向に反対して、極端に独自の漫歩と等量とを主張した極端従主義で、めいことは、[illegible]。俺は極端な自尊主義——俺は極端な極力主義に二イチェは独自の本領がたつたことも書はれやう。此の奇矯な才は、自分の上に於て、絶対的に一切価値を感じ、人に対しては、人の尊厳を主張せんとする男めた。これ丁度のコーロッパ文明の享楽又は誇れる皮相的な平和的傾向に対して、彼初から断然反抗を決り、むしろ義侠精神に燃えさかへる強烈な戦闘的精神に燃えさかること

（東京 文房堂製）

如何の人間生活であるとを忘れたことは、明らかに在来文明の平和主義を破壊するものであつた。ニイチエは此の意味の大破壊者であつたのだ。彼は絶対の絶望に於て、アポロ式文化と戦しく、深刻なディオニソス式恋刺を讃美したのだ、最初から彼は享楽又は平和は堕落に及ぼすと云つた。苦痛は彼に取つて人生の最も深く最も貴い経験であつた。苦痛に耐へる忍耐力の強さによつて人間の偉大さが決定されるとさへ云つた。

やがヨーロッパの平和道徳は、やはり入ト教に反抗したことは、除りにも著名な事実である。独立自尊の力を缺き、人間が互に相愛し相憐れむ謙遜に生活の一端と果たすといふ如き性質は、最も軽蔑すべき奴隷道徳であつて、高貴な人間の道徳ではない。無元刑な爆愛といわれさは、邪者、病者、奴隷の事であつて、決して強者、貴人の事ではない。況やキリスト教は人間の本能を殺し、欲望を禁じて生活上のものを絶滅せんとするものであるに於てをや。

（東京 文房堂製）

新しい独立自尊の強者道徳はニイチェ思想の根本となり、強者は弱者を支配し、弱者はたゞ強者に奉仕することが人間社会のあり方であると主張された。新しく政治的に強者となり、遅れてあらゝと主張された。ドイツは、ナポレオンの侵略を受けてから、ようやく国家的自覚をもつに至り、ナポレオンの侵略の後、国家の政治的保護を強調するものゞ、ニイチェが新しく打ち出した主義の代表者であつたことは、今のもはや説明するまでもない。

――強力意志の侵略的――これがニイチェ思想の結果であつたことを、これまでの歴史が物語つている。

第四

世界戦争に於て、全世界の前と後を画する様なくさん、ナチス政権のもとにドイツ・ナショナリズムの大旗をかゝして奮起した現代ドイツの姿は、余りにも強くニイチェの自尊的な新興精神を極大し実践化し実現化したものゞはなからまいか。

(東京 文房堂製)

ら離れんドイツ独自の傳統的精神――ドイツ・ナショナリズムに返へらうとしてゐる。若僚也先輩がニイチエ思想の重大要素であつたやうに、現代ドイツは世界戦争以来の苦難と恐慌と動揺と変化に大仕掛にあらやゆる傳統と恐慌と動揺し、苦悩つたのだ。

現代ドイツに取つては、ニイチエの主張は餘りにも過分に全民族に取つての預言としか感ぜられない。現在ドイツに取つては、華々しかりし前代ドイツの傳統精神に返つて、ナショナリズムの革命を自覚し、此の革命を出来さだけ徹底し強化し更新するよりか外に途は無い。一歩を誤れば、全ドイツは再び二つの餓鬼となつてしまわこと疑ひなしよりも明らかである。

斯かる時代に於て、現代ドイツに於て、ニイチエ思想が異常な勢を以て復活したことは、社会的に因縁のあつたと共に、ニイチエは必ずしもナショナリズムの主張者ばかりたらず、孤独的強者道徳を主張をんとすした貴族的革命思潮に於て、今日のドイツ

（東京 文房堂製）

は、ニイチエを偏大化し異端化した結果である。

強いニイチエの深刻な悩みは、其のまゝ大仕掛に今日のドイツに現はれて居る。ドイツ精神の復活――ナショナリズムの擁大強化は、ニイチエの貴族道徳を擁大強化したものに外ならない。勿論に於て、ニイチエは熱烈なナショナリストであり、強にドイツ民族主義の奔騰者であつたと言はれやう。今日のドイツ思想界に於て、ニイチエが復活したことは、論理にも必然的であつたと言はるべきであらう。ジュネーヴの国際聯盟からの脱退は、ニイチエの憤慨から平和主義の罵倒とそのまゝ具象化したものとも見られよう。孤独孤絶の場合にニイチエの姿は其のまゝ現代ドイツの悩み深い孤立の姿であらう。

新しい現代ドイツに於ける最高指導精神は言はずもがなナチス政治によつて指示されたドイツ・ナショナリズムの奔騰であり、又ドイツ民族主義の再興復活に外ならない。ドイツ民族精神の奔騰これは、ドイツ民族に取つて

(東京 文房堂製)

は、社会生活と又国家生活との絶対的最高原理であつて、個人生活は全民族精神の成長のために犠牲に供せられねばならぬ。ドイツ民族精神は全体のために犠牲に供の部分である。部分が全体のために犠牲に供せられることは、人間生活の必至の法則であり、又ドイツ民族固有の精神ともある。超人のために犠牲とする一イデエの理想は、理論的は形式に於ては、必ずしも全民族精神と一致するものではあるが、全社会生活の最高指導原理として充分に於ては全く一致しない。

この頃に於て、現代ドイツ国民は、恰もニイチエが超人的責任主義を捨てゝ弱肉強食のみを主張したやうに、ドイツ民族主義を捨てゝ、正面からとれば、デモクラシーを撃ちゝ。ナチスは元来社会主義の形式の上に立脚するものであるが、今は民族主義と共の指導理とを、真面からマルクス主義の共産党を撃ちゝ。デモクラシーの原理の上に立脚せられゝ。ドイツ議会は、ヒトラーによりて全く中止せ

セルである。ドイツ民族性から見れば、デモクラシーは元来英佛の西欧文化からの借ものであって、必ずしもドイツ民族性の自覚物ではない。西欧のデモクラシーは個人本位の基礎の上に建てられた民衆本位の政治形式であって、ドイツ民族主義の全体本位の政治形式とは全く相容れない。現代ドイツ民族主義を風靡する敵はデモクラシーの根柢に立脚した異思想であって、此の左翼思想と撃砕するにあらずんば、ドイツ民族主義の建設は不可能である。

◆

と考へられるである。

過つて、今日のドイツ国は、先づ口ンドンに対し、フランスに対し、イギリスに対し、政治的に思想的に全く敗北を喫したるものである。

元来ドイツ民族主義は、平等主義の平民思想に就くよりは、むしろ優越感別の貴族思想に就くよりは、又は階級制度を生命とした。

とする階級思想又は階級制度は、優越感別の思想に立脚する貴族主義であって、どこまでもドイツ民族性の根本である。

労働民衆の力を消滅しては、今日どうすることも出来ない。ドイツ国の発展は、少数貴族的なる紅一点に頼よ

(東京 文房堂製)

つて実現し得なかつたとしたならば、全くせい
にとまつることが出来ないのである。

所がしかるにデモクラシー思想が極度
にデモクラシー思想が新
らしい元氣を得て復活したといふことは、これ
また同様又必然の理由であると言はなければ
ならぬ。デモクラシーが二イチエの貴族主義
の敵であるやうに、極端な第三義はドイツ民族
主義の正面の敵なのである。二イチエに取つて
は民族主義が真の文化にはつて無意義であるが

やうに、今のドイツ国民に取つて、民族主義は
民族主義の発展向上に必要の第一歩と為さな
いのである。第三帝国主義は絶対的差別主義と
は別個に考へなければならぬ。寄稿家二イチエ
思想が今のドイツ思想に不可思議なせいと
制約とを与へる所以である。

二イチエがデモクラシーと共に極端に排
撃したものはポジチヴズムであつた。ポジチ
ヴズムが発生する地盤である産業発達と
印刷術の発達とは、現代ドイツにせい

なる向上を持つてゐるかは、餘りに愚かしき迷信である。産業及び自然科学の発達を無視しては、近代生活は全く考へられない。殊に現代ドイツに於ては、此の方面の発達進歩が最も著急を要する事柄である所以は、敗北を余儀なくしたドイツとして、安に産業の発達を嘆息した者のはない。産業や自然科学の発達は、今日はもはや尽未だ全くじゃらざる必須要件であるが、西欧諸国に於ては其の地盤のに既存度相当程度と立つるに至つたものが

所謂ジェネベルムである。だがジェネベルムは自然科学のように明かに其の方に進歩しない。

物の深さとは眼をつぶつて、安價な実主義又は功利主義と安んじんとする人生観がジェネベルムである。変態主義と功利主義とは異見の両極である。尚代のドイツ。ロマンチシズムが西洋の敵としたものも、此の意味の浅薄な唯物思想乃至安逸な幸福主義――ファリスティル文化に外ならないと。かゝるに理論的に高尚なりとは理論的に高尚なりとは言はれなかつた。ニイ

（東京 文房堂製）

チエが中心から嫌悪したものも此の意味の個人主義文化に外ならずかつて。女優が享楽主義又はカポジチボムはデモクラシーと結び、絶対に離れ難くもつれ合ってゐる。恋つゝ、ポジチボムは気風主義の世界観であり、個人主義の人生観である。れんが貴族主義と最も親及したものであるのは言ふまでもない。

私は現代のドイツ社会に二イチエ式或ポジチボムの傾向が強くあらはれてゐるかとも知らない。然しながら、ドイツ民族主義の復活を希望する少数有識者は、斯かる傾向が決して二イチエの理想主義文化に及つゝ深さの優越的乃至民族的文化にみたらんとする傾向は、小なるに強

此の特殊的文化的傾向がそのドイツ民族主義の本領は迫められる。斯やうな意味に於て、固有の又は傳統のドイツ文化にあこがれる者は、必然的に二イチエの及ぼ所の反ポジチボムの思想に共鳴し同感せざるを得ない。彼等は二イチエによつて事実のドイツ文化へと到達し

備考さんらのべ多ら。

第五

本論文の最初に於て、私は最近三たびの我國に於けゝこイヤエ思想の復活と稱すべき現りに於て、これまでの復活と較べて最も意義深いものゝ多り又最も商略的なものゝ多らんとおもへた。しかるに、我思想界に於て、事實どれだけ此の奇矯的天才に對し一致意の伸のゝ為るか、私には如斯強く続はれら。一方から言へば、我國に於ては、こイヤエはもはや三十年以來語りつくされ言ひ盡された思想家の多つゝ、他面にこれに對し何等新鮮味を感じない。彼れは餘りにも古い思想家のゆゝに先へらんら。しかるに、他面から言へば、たとへ我思想界に現代ドイツ的に似のあつた動機があるとしても、それは事に多少似のあつゝ為るといふに過ぎないので、必ずしも一致したりとは限らない。進つて、こイヤエ思想の反響が、何となく間接的であり、直切であり、強さがあつゝ到底ドイツのそれに比較すべくもない。それに

（東京 文房堂製）

も拘らず、多少なりとも二イチェ流の故障があるとすれば、以前の過度なありは一層時代的なり又現在意味をもつたものと考へられる。

たとへば個性の意義と自分とに於ては悪しく相違して居るに、外觀形式には我國思想界の傾向とドイツのそれとの間には相當類似點があるとも考へられる。然るに代りにアリズム産物たるマルクス式共産思想は横溢されつゝいま一層強い意味のデモクラシー民主思想の位のデモクラシー思想も強く抑壓されつゝ

（に至つた）

我も強く又我も強く今日の人心を支配するものは日本精神であり日本ナショナリズム乃至日本民族主義の精神である。日本民族主義は悪しくドイツ民族主義と異なるものであるが、民族本位のデモクラシーに對し、特殊の意味に於て國家本位の精神であり、全體本位の精神である。

ことは明白である。

独自の國粋を把持し、これを誤じ、これに歸依し、すべての思想を極度に排撃しつゝあるが今日の社會趨勢である。

（東京 文房堂製）

我国運の隆盛は世界の驚異の目標となつてゐる。

ドイツ民族主義と共ならドイツ国民思想が極度に感情的に興奮し、我れの神経を刺激し、我れの全思想は著しく乱れたり。情状者は自分に満ちんとす。

このように、ニイチエの超人的気分は今日の我が社会は極端積欲的に堕落し、全神経は一致しない。

たゞ思本位のみをリアシに強しいて、全体本位の民族主義と高調する所に於て彼は一致し、其の要と成れ、ニイチエ思想がどれ程かの意味と成て我国と成したゞけ。

次に我国にニイチエ思想が紹介された時は、我国の事情とドイツのそれとの為に、たとへ形式的にもせよ、さまでの一致や類似は無かつた。マルクス思想の為に二の手、三の手が主張されたとすれば、その意味が有る。たゞしこゝにニイチエ思想の後援と言つても、其の超人思想と民族主義と同視すべきでないことは、こゝとさら言説するまでもない。

最後にニイチエは世界ポジチヴズムの

（東京 文房堂製）

撃されるものが、此の頃に於て、日本の思想界はどれだけニイチエ思想の影響を受けたか、甚だ疑はしいやうに感ぜらるる。一般社会は現代の日本資本の発達に満足しないから、これから結果しやすい政治家思想乃至功利思想に満足しないやうにならう。さやうな政治家思想に満足せず、もつと深くもつと高い民族的神の命令に従へと強めるといふ如きは、まだ一般にはあらはれない傾向のやうである。私は此の頃に実してもつとニイチエの利益がもつと我思想界に

に陥ることを望ひたものであるが、今日の日本主義の主張の中には、外国の思想はすべて二元と結びせんとするやうな傾向があるために、ボジチヴズムの哲学思想乃至政治撃のニイチエの思想さへも、我国へは特別の形式と及ぼさ

いやうにせんとする。「神の命令」

ニイチエの強い精神主義と理論的

出来ないのは、ひしろ日本思想の政治的

なかにしこんで

私はニイチエの高い方向を始さずして、其の連合的中心思想を始と

（東京　文房堂製）

しゝがゝことば言ふまゝをなゝ。

（東京　文房堂製）